

～ 医療法人わかば会のケア情報誌 ～

わかば倶楽部

May 2014 Vo.38 5月号

編集・発行／医療法人わかば会
〒857-0016 佐世保市俵町 22-1
Tel 0956-22-6548 Fax 0956-24-7270
http://www.wakabakai.or.jp

- ✓ 平成 26 年度診療報酬改定 地域包括ケアシステムの姿
- ✓ 地域包括ケア病棟の役割〈病床機能分化〉
- ✓ 特集 認知症と生活習慣病との関連について-2-



長崎スイートピー物語

～認知症・在宅・これからの高齢者医療～

NIB で 5 月 2 日に再放送されます。

今年わかばテラスに咲き始めたスイートピー (4/30)

● 2013 年 9 月 22 日 (日) に BS 日テレで全国放送された「長崎スイートピー物語」が、長崎国際テレビ (NIB) で再放送されます。超高齢化社会を目前に「認知症・在宅・これからの高齢者医療」という観点で、当法人が取り組む医療、介護現場の現状が紹介されます。是非ご覧ください。

日時：2014 年 5 月 2 日 (金) 午後 3 時 55 分～午後 4 時 50 分 放送局：長崎国際テレビ (NIB 4ch)

番組タイトル：「長崎スイートピー物語 ～認知症・在宅・これからの高齢者医療～」(※放送日が変更になりました)

里山レシピのご紹介 「ウフ・ア・ラ・ネージュ」 1 人分 90Kcal



フランスの家庭的なおやつ。ウフは卵、ネージュは雪という意味で、その名の通り卵白が雪のようにのっている、見た目も美しい一品です。生のパイナップルにはたんぱく質を分解する酵素ブロメリンが含まれていて、消化を助けるので、夏バテで胃腸が弱っているときなどの食後のデザートにもおすすめです。

材料 4 人分

- A パイナップル・・・150g
ココナッツミルク・・・1/4 カップ
粉砂糖・・・30g
- B 卵白・・・1 個分
砂糖・・・大さじ 1
- ラム酒・・・小さじ 1/2
(飾り/ミント)・・・適量



作り方

- ① フードプロセッサーにAを入れて、なめらかになるまで攪拌し冷蔵庫で冷やす。
- ② ボウルにBの卵白を入れ、Bの砂糖を2回に分けて加えながら泡立て、角がツンと立つくらいメレンゲを作り、ラム酒を加えて軽く混ぜる。
- ③ 大きめの鍋に水をたっぷり入れて火にかけ、沸騰する前(小さな気泡が出るくらい)に②のメレンゲを4つに分けてお玉などですくい入れて浮かべる。形が崩れるのでひっくり返さないこと。
- ④ 固まったら静かに取り出してパットなどに並べ、冷蔵庫で冷やす。
- ⑤ 器に①のソースを注ぎ、④を浮かべてミントを飾る。

ワンポイントアドバイス

◎作り方③のとき、お湯がぐらぐら沸騰していると卵白がバラバラになってしまうので、火加減を調節しながら加熱しましょう。

医療法人わかば会

- 俵町浜野病院 (Tel 0956-22-6548)
【医療】内科・外科・循環器科・呼吸器科・消化器科・整形外科
肛門科・リハビリテーション科
病室 (一般病棟 26 床・療養病棟 38 床)
【介護】居宅介護支援事業所・ヘルパーステーション
デイケアセンター・グループホーム・訪問看護ステーション
- 有料老人ホームわかばテラス (Tel 0956-76-8780)
【介護】デイサービス風祭り・デイサービス里山療法クラブ
- サービス付高齢者向け住宅わかばレジデンス (Tel 0956-22-6544)
- 有料老人ホームわかばハウス (Tel 0956-22-6535)
【介護】小規模多機能ホームわかばハウス

わかば会の理念

wakaba-gokoro
わかばこころ



和をもって、一人ひとりの施設づくり

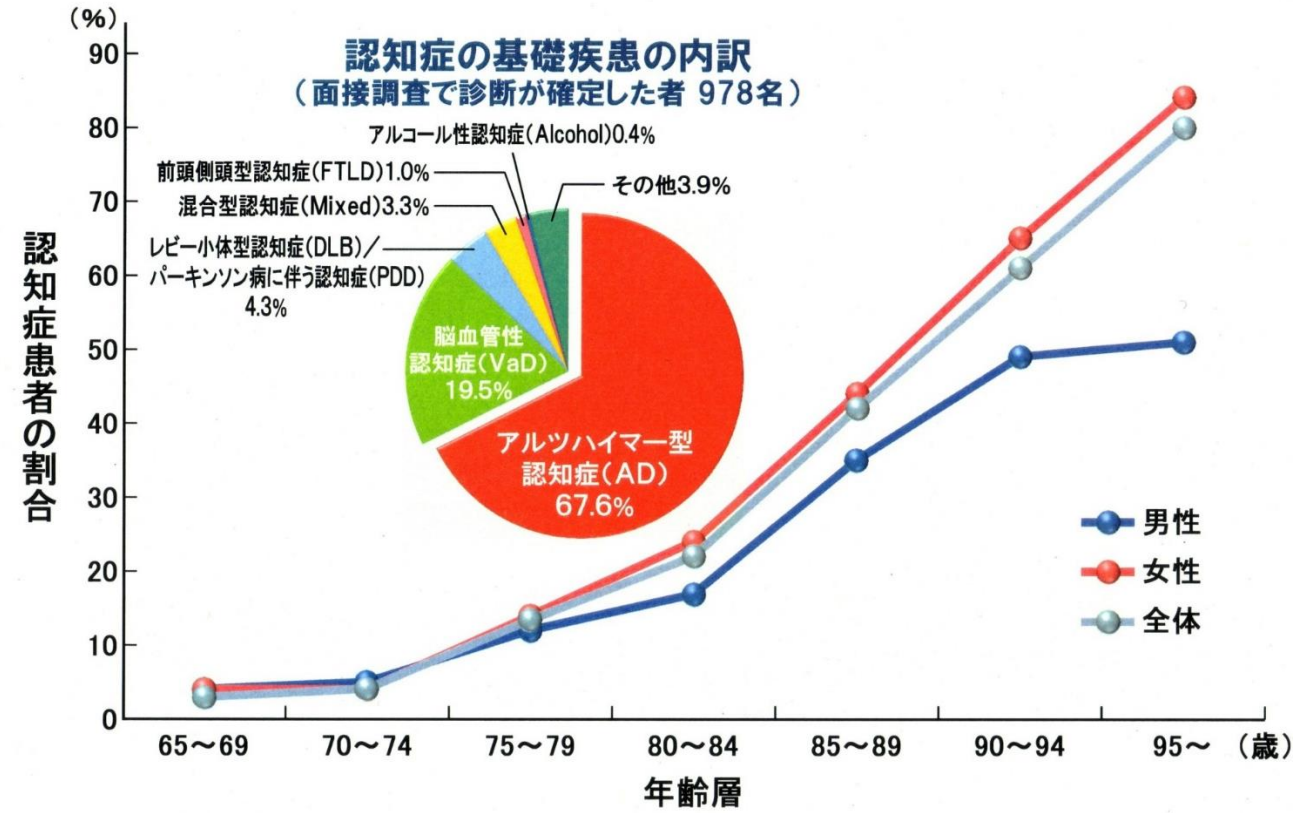


環になって、患者さまとの健康づくり



話によって、みんなで育む関係づくり

2012年の認知症高齢者数は、推計約462万人であった



「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」(平成23年度~平成24年度)総合研究報告書

特集 認知症と生活習慣病との関連について - 2 -

最近認知症の方が増えて来たという話をよく聞きますが、一体どれ位の方が認知症あるいはその一歩手前の軽度認知障害 (MCI) なのでしょう。

昨年発表された国の報告によると認知症の方は約462万人、軽度認知障害の方は約400万人いると推計されています。しかし実際はこれより多いという報告もあります(久山町研究という日本を代表する疫学調査によると認知症の方は550万人位と推計されています)。

- 70代前半では男女とも約5%
- 70代後半では男性で約13%、女性で約16%
- 80代前半では男性で約17%、女性で約25%
- 80代後半では男性で約36%、女性で約46%
- 90代前半では男性で約49%、女性で約67%
- 90代後半では男性で約52%、女性で約85%

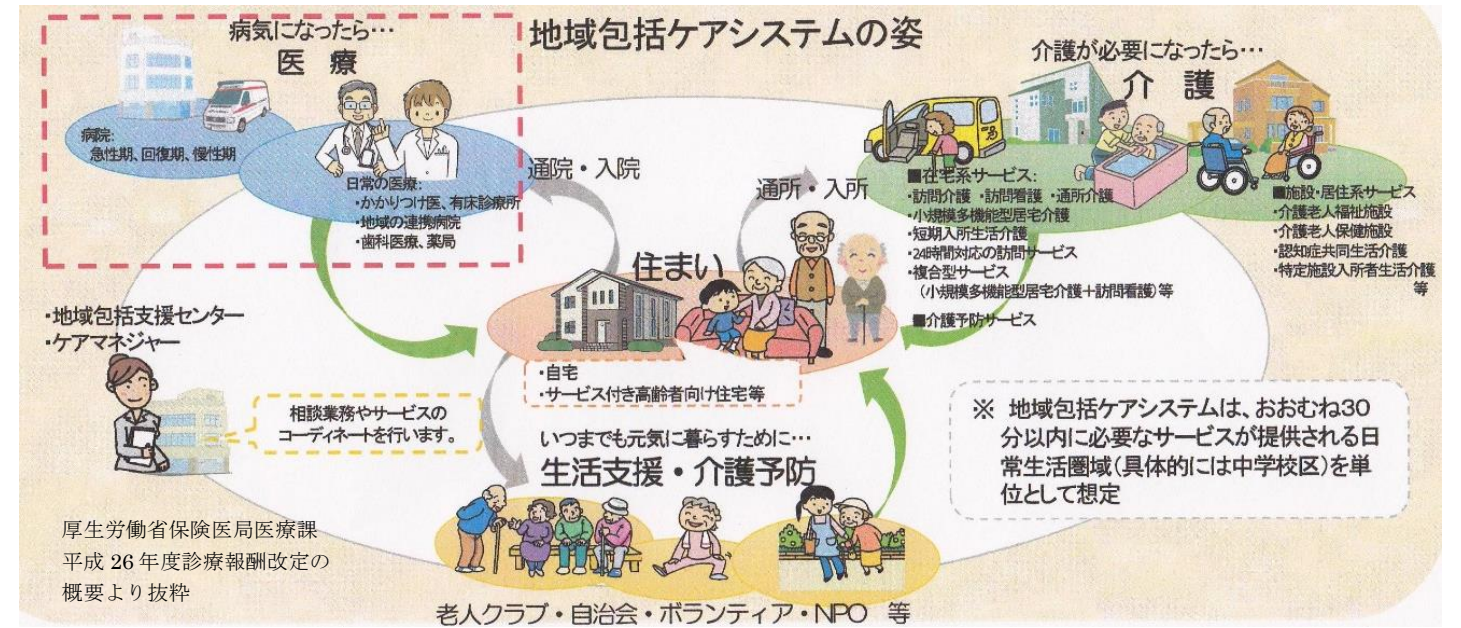


の方が認知症と、有病率はだいたい5歳きざみで倍増すると言われてます。

その多くがアルツハイマー型認知症で(67.6%)、その次に多いのが脳血管性認知症(19.5%) (脳卒中の後遺症として認知症を発症)で、この2つの疾患が認知症の大半を占めています。皆さん御存知のように脳卒中は生活習慣病です。食事や運動、タバコやお酒の影響で糖尿病や高血圧、脂質異常症やメタボになり、そのあげくに脳や心臓の血管がつまってしまい、脳梗塞や心筋梗塞になります。また高血圧によって脳の血管が破れると脳出血やくも膜下出血をおこしてしまいます。こうした脳血管の病気をおこさないようにすれば、脳血管性認知症にならずに済みます。つまりは生活習慣をより健康的にすれば、脳血管性認知症にならずに済むということになります。

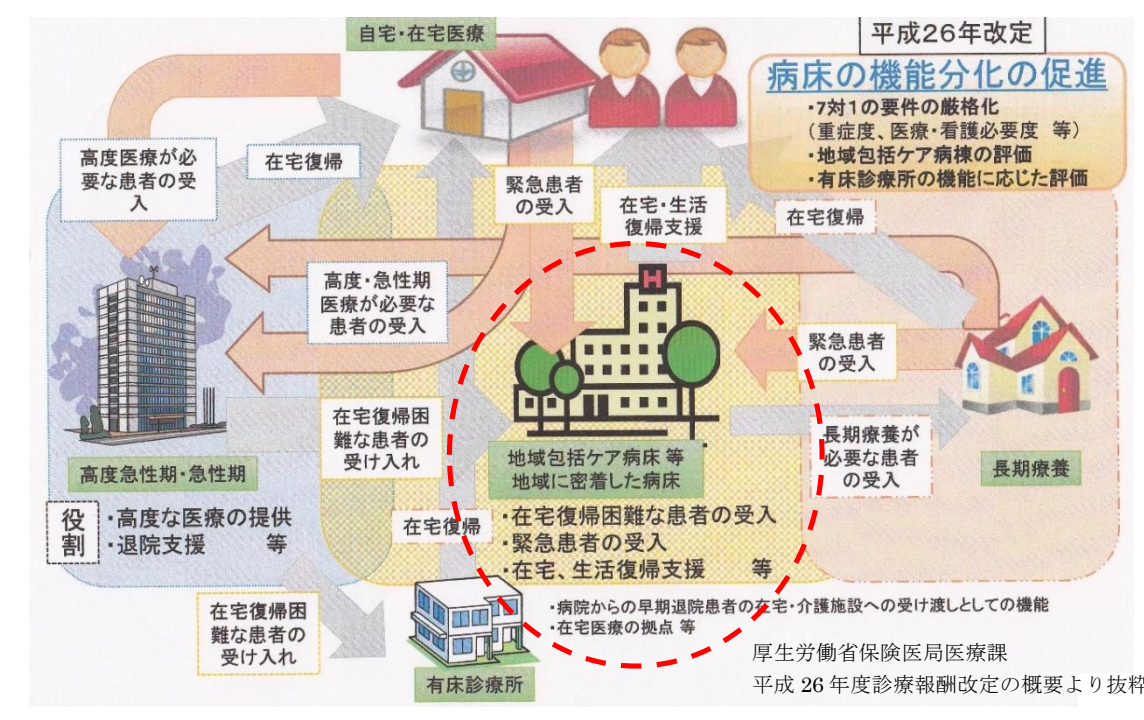
では、最も多いアルツハイマー型認知症は防ぐことができるのでしょうか。(次回)。

平成26年改定 地域包括ケアシステムの姿



今年の4月1日から大きな医療制度の改定が実施されました。改定内容の基本指針は「医療機関の機能強化・在宅医療の充実・地域包括ケアシステムの構築」です。この地域包括ケアというものは「医療・介護・予防・住まい・生活支援」が一体的に提供されるシステムです。これからの日本は高齢者の人口が急増する為、市町村、都道府県が地域の特性に合わせて主体的なシステムを作り上げていく必要があります。例えば、医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ高齢者を地域で確実に支えるためには、訪問診療や訪問看護等の在宅医療が不可欠であり、自宅や高齢者住宅や有料老人ホーム、グループホーム等、どこに暮らしていても必要な医療が確実に提供されなければなりません。その為かかりつけ医の役割が改めて重要となります。医療・介護サービスが地域の中で一体的に提供されるようにするためには、医療・介護のネットワーク化が必要です。その連携をどのようにマネージメントしていくかが重要なポイントとなります。消費税の増税も始まり、社会保障・税の一体改革が私たちの生活に大きく影響してきます。限られた財源の中で、医療、介護保険制度を有効に活用し、地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組んでいきたいと考えています。

地域包括ケア病棟の役割〈病床の機能分化〉



地域包括ケア病棟の役割は「急性期後医療と在宅医療の橋渡し」です。高度・急性期医療が必要な患者には大病院で専門的な治療を行っていただき、治療後からのリハビリや術後のケア、そして退院後の在宅医療までを地域包括ケア病棟が行っていきます。在宅への復帰支援や救急患者の受入等も担うため、より地域に密着した病院となります。